議案第３５号

町田市登録有形民俗文化財の登録について

上記の議案を提出する。

２０２５年３月３日提出
町田市教育委員会
教育長　小池　慎一郎

（提案理由説明）

本件は、町田市文化財保護条例第３７条に基づき、「成瀬の天狗型道祖神（３基）」を町田市登録有形民俗文化財に登録するものです。

名　　称：成瀬の天狗型道祖神（３基）
種　　別：町田市登録有形民俗文化財
所 在 地：①町田市成瀬５丁目４９９５番地　　山之根稲荷神社境内
　　②町田市南成瀬４丁目１９番地１４　西山児童公園内
　　③町田市南成瀬８丁目１１番地３３
所 有 者：①不詳
　　②不詳
　　③不詳
内　　容：道祖神
製作年代：①１７３７（元文２）年７月
　　②１７２９（享保１４）年１月
　　③不詳（近世）
沿　　革：①１７３７（元文２）年７月、山之根村氏子により造立される（刻銘より）。山村橋（現都営団地北）のたもと、成瀬堰引堀土手にあった。昭和４０年代の区画整理により現所在地へ移設された。現在は山村講中が所在地の草刈りを行っている。現所在地に移設される前は、どんど焼きを実施していた。
　②１７２９（享保１４）年１月、木目田姓及び中里姓の氏子により造立される（刻銘より）。西山橋たもと西之久保新坂下の崖上にあった。区画整理により現所在地へ移設された。かつては西ノ久保講中が世話をしていた。現在も現地周辺公園で町内会を中心に、どんど焼きを実施している。
　③東光寺村氏子により造立される（刻銘より）。当初から現所在地付近にあった。２０１６年、隣接道路の整備にあわせて東光寺講中が石造物の設置環境を整備した。２０２３年までは、どんど焼きを実施していた。
法　　量：①高６７×幅３５×奥行１８㎝
　　②高１０５×幅４８×奥行２７㎝
　　③高６５×幅３８．５×奥行１２㎝
現　　状：①形状は駒型で、正面に浮彫型の天狗立像と銘文「奉造立　登神　武劦多摩郡成瀬山之根村　元文二丁巳七月吉祥日　氏子惣施□」が刻まれ、台座には銘文「［　］田信［　］　武藤［　］武藤文［　］　武藤太良［　］　落合又［　］　落合［　］落合作［　］　［　］六［　］」が刻まれている（摩滅・破損等により文字が判読不能の箇所は、判読できない字数が判明する場合は、その字数に相当する□を記し、また、字数が不明の場合は［　］で表示）。塔身には剥離が多くみられ、像容

は、顔、右腕、両腿部分が欠損しているが、背中に羽をつけた修験のような姿が確認できる。
②形状は駒型で、正面に浮彫型の天狗立像と銘文「奉造立祭神　武刕多摩郡成瀬村　享保十四年正月吉日」が刻まれ、台座には銘文「氏子　木目田治右衛門　同苗七良右衛門　同苗仁兵衛　同苗市良右衛門　同苗武左衛門　中里仁左衛門　同苗三左衛門」が刻まれている。塔身を横断する亀裂があり、一部欠損しているほか、像容は、顔面が剥離しているが、頭巾をつけ背中に羽をつけた修験のような姿が確認できる。
③形状は舟形光背型で、正面に浮彫型の天狗立像と銘文「奉建立　道祖神　武刕成瀬　東光寺村惣氏子」が刻まれている。像容は、顔面の表面が削れているが、右手に団扇、左手に杖を持ち、頭巾をつけ背中に羽をつけた修験のような姿が確認できる。

登録理由：　成瀬地区に存在する１７００年代に造塔された正面に天狗の像容を配した３基の単体像道祖神塔である。

道祖神は、悪霊や疫病などから守護する神、五穀豊穣・子孫繁栄の神でもあり、「セーノカミ」「サイノカミ」などとも呼ばれている。

３基のうち、③の道祖神塔については、１９６０年代頃から研究者の間で、珍しい像容の道祖神塔として注目されており、１９７５年に初版が発行された庚申懇話会編『日本石仏事典』においても、清水長明氏が「珍しい例として、天狗を浮き彫りにした道祖神が町田市成瀬にある。」と紹介している。

天狗の像容については、烏天狗か天狗童子かという二つの見解があるが、本体の頭頂部と天狗の鼻の部分の一部が欠けており、現状では結論付けることはできない。しかし、『新編武蔵風土記稿』成瀬村の項に本山修験の五大院があったとの記述があることから、近隣に修験者の存在をうかがい知ることができ、修験との関連性は深いものと推察され、３基の天狗型の道祖神塔が同地区内に存在することからは、成瀬地区に固有の道祖神信仰があったものと考えられる。

道祖神に関連する行事としては、小正月のどんど焼きがある。町田市域では「セーノカミ」「サイノカミ」「ダンゴヤキ」などとも呼ばれ、道祖神の周辺で、竹や藁、正月飾りを積み上げて火をつけ、だんごなどを焼くものである。３基の道祖神のうち、②については、町内会主催と形を変えながらも現

在もどんど焼きが実施されている。

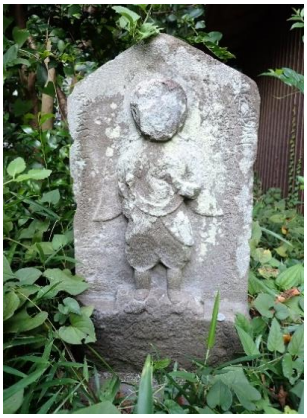
天狗の像容が刻まれた道祖神塔は、全国でも他に例がなく、さらにそれらが３基同一地区に存在していることは、たいへん希少性が高く文化的価値が高いといえる。

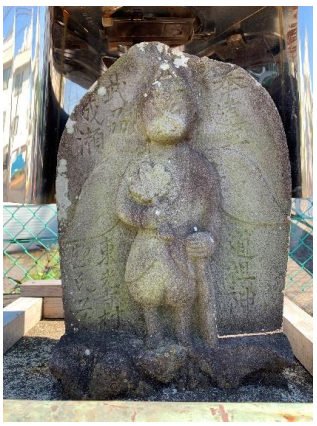
また、本件の３基の道祖神は、本尊として天狗像が刻まれていることが最大の特徴であるが、市内に残存する１７００年代前半に造塔された時代の古い単体像の道祖神塔としても貴重なものであるといえる。道祖神塔全体の分布は、境川を境としてその西側（旧相模国）に圧倒的多数が分布し、要因ははっきりしていないが東側（旧武蔵国）に入ると造塔数は激減する。単体像の道祖神塔は、道祖神としては古い型のもので、１７００年代前半にその多くが造塔されている。その後、１７００年代後半を中心に、一般的に知られる双体像の道祖神塔が造塔され、その後の１８００年代以降は、文字塔が中心となっていく。２０１５年度から２０１８年度に市教育委員会が実施した市内石造物の調査によると、市域内に存在する道祖神は３４基で、そのうち１７００年代に造塔されたと考えられる単体像は本件の３基を含め６基のみであった。

なお、②の道祖神塔については、寸法が高さ１０５ｃｍと大きいことも特筆すべき点である。高さ１００ｃｍを超える道祖神塔は近隣地域をみても珍しく、希少性が高いものであるといえる。

以上のことから、成瀬の天狗型道祖神塔（３基）は、町田市固有の地域の歴史、文化を理解する上で、また全国的に見ても、石造物としての文化財的価値が高いものとして、保護・保存するに値するものであると評価でき、町田市登録有形民俗文化財としてふさわしい。

①



②

③